

2026 年と 2025 年の知財情報フェアにおける IP ランドスケープの展示発表比較

展示内容と発表内容の調査に基づく変化の考察

調査基準日 2026 年 9 月 20 日

GPT-6 Astra

2026 年の特徴は、IP ランドスケープの分析結果を、経営・研究開発の判断や組織の行動につなげる方法が、より具体的に提示されたことである。

ただし、2025 年にも生成 AI、AI エージェント、市場情報との統合、新規事業創出、社内情報の活用は既に登場していた。両年の違いは、こうした取り組みについて、2026 年には利用者、業務への組み込み方、成果物、根拠の確認方法が一段と明確になった点にある。以下、IP ランドスケープを IPL と略記する。

比較対象は、2026 年 9 月 16～18 日開催の第 35 回 2026 知財・情報フェア&コンファレンスと、2025 年 9 月 10～12 日開催の 2025 知財・情報フェア&コンファレンスである。[1][2]

調査は 2026 年 9 月 20 日時点の公開一次資料に基づく。主催者の出展者情報・講演要旨、出展企業の告知、事後報告を照合した。公開要旨から把握できる内容は、当日の全発言や実機性能の検証結果とは区別する。IPL という名称を掲げるものに加え、特許・技術・市場情報を経営、事業、研究開発の判断になく展示・発表を対象とした。[3][4][5][6]

主要各社を同じ軸で比較すると、表 1 のようになる。「変化の読み取り」は、公開された展示・発表内容を踏まえた考察である。

表 1 主要出展者の両年比較

出展者	2025 年の展示と発表	2026 年の展示と発表	変化の読み取り
TTDC	IPL による戦略立案支援と生成 AI ツール swimy を展示。NGB・AI Samurai との共同講演では公開・特許・社内情報の活用を議論。[7][4]	谷川洋平氏が経営層・開発陣を動かす IPL を発表。経営・開発の巻き込み方、目的に応じた使い分けを扱う。[3]	分析・提案の受け手と、組織を動かす実践方法を明示。
レクシスネクシス	PatentSight+、IPlytics、Classification、TechDiscovery を展示。特許データによる戦略的意思決定を訴求。[8]	PatentSight+に特許分析用 AI アシスタント Protégé を搭載。自然言語による問いからの分析と、検索・分析過程の確認を支援。[9]	分析操作と結果解釈の支援を強化。知財専門家以外にも入口を広げる提案。

出展者	2025 年の展示と発表	2026 年の展示と発表	変化の読み取り
NGB	出願・放棄動向の独自指標と生成 AI を組み合わせ、ポートフォリオや維持費用の検討を支援。 [4]	前年の日本特許分析に続き、米国・ドイツを対象に分析。出願と放棄の推移を組み合わせ、生成 AI で背景を検討。[3]	対象国の拡張が明確な差分。投資の勢いと整理・撤退の動きを併せて読む。
HackCamp	共創ナビ ivan を展示。正林国際特許事務所との IPL 講演、三菱電機との事業開発事例講演を実施。複数特許群の活用も既出。 [10]	特許群から技術・機能を抽出・構造化する用途探索と、経営・研究開発向けの成果物を発表。ivan、GraphRAG、人的伴走を組み合わせる。[11][12]	事業化支援の工程と、AI・社内知識・人の役割分担を具体化。
アイ・ピー・ファイン	THE 調査力 AI、IIC、社内統合インテリジェンス大和を展示。市場・知財情報の統合と継続的ランドスケープを説明。[13]	国内外の経過監視、AI ワーカーの拡充、検索から分析までをつなぐ仕組みを紹介。IIC と知財 DX ラボの発表も継続。[14]	継続監視と日常業務への組み込みを拡充。社内情報統合は前年から存在。
VALUENEX	Radar を展示。講演では俯瞰解析と生成 AI による R&D インテリジェンスを紹介。[5][4]	Radar に加え、技術レポートを提供する RTI、課題・技術・品質表の作成を支援する Radar QFD を掲載。講演は技術探索や M&A を扱う。[15][3]	成果物と利用場面を具体化。製品ごとの初発売年までは展示記載から判断しない。
ジー・サーチ	JDream Innovation Assist による論文・特許・新聞記事の統合可視化、研究者探索、受託分析を展示。[16]	文献の統計分析による技術動向把握、生成 AI での文献データ利用・許諾を講演テーマに設定。[3]	データ統合を継続し、分析手順と利用条件まで掘り下げる。
クラリベイト	Derwent Innovation、Derwent Data Analyzer、IPfolio 等を展示。Patent Monitor 等の新製品と AI 活用も紹介。[17]	特許・商標・係争データと生成 AI を組み合わせる IPOne を紹介。公式説明では開発中。顧客の AI 環境との連携も構想に含む。[18]	複数の知財データと AI を横断する環境を提示。構想と提供済み機能を区別。
東芝／アクロソフト	IPeakMS、MotionBoard、PATWARE を展示。費用対効果や競合分析は既に対象。[19]	経営データと連携する知財 ROIC を参考出展。管理、価値評価、投資効果の分析を接続。[20]	投資・利益との関係を、より直接的に示す提案。価値評価自体は前年から存在。
イーパテント／アクティス	知財情報分析、コンサルティング、人材育成サービスを展示。 [5]	IPL 支援に加え、開発段階に合わせた情報提供、分析プロジェクトの運営、PMBOK による IPL 実装をブースで発表。[21]	分析の前後工程、社内への導入・定着を詳しく扱う。

注 TTDC はトヨタテクニカルディベロップメントを指す。表中の「新製品」「搭載」「開発中」「参考出展」等は各資料の説明に基づき、独立した性能評価を意味しない。

2026 年の講演は、IPL を使う工程や、成果物を届ける相手を具体的に示している。

表 2 は、IPL との関係が強い講演と、その分析基盤として重要な講演を整理したものである。演題・要旨は一部要約し、同じ内容の複数枠をまとめた。日付と講演 ID は公式セミナー一覧による。[3]

表 2 2026 年の主要な関連講演

日付と講演 ID	発表者と企業	IPL との関係が強い内容
9/16 P3-05 9/18 P4-15	TTDC 谷川洋平氏	経営・開発を巻き込む IPL の実践
9/17 P2-08 9/17 P4-09	レクシスネクシス 中村栄氏・小澤恵輔氏・津吹陽介氏	IPL の手順への Protégé の適用、企業分析
9/16 P1-04 9/17 P4-12	HackCamp 矢吹博和氏	経営目標と知財活動の接続、特許群からの用途探索
9/16 P2-03 9/17 P3-09	NGB 老川裕之氏・水谷太朗氏	出願・放棄データによる技術動向分析
9/16 P4-05 9/17 P1-11	アイ・ピー・ファイン	R&D ランドスケープ、検索・分析業務の統合
9/18 P1-13	VALUENEX 菊池健氏	俯瞰解析を使った技術探索・M&A 検討
9/16 P3-06 9/17 P1-07	ジー・サーチ 中辻裕氏	技術動向の統計分析、文献データの AI 利用
9/18 P4-14	IPdash Intelligence 留場恒光氏	Rival Seeker による競合の開発チーム単位の分析
9/18 P1-18	AI Samurai 白坂一氏	競争環境の可視化構想、MCP を使う特許分析
9/18 P3-17	クラリベイト	IPOne による対話型・横断的な検索分析
9/18 P3-13	化学情報協会	CAS Newton の検索過程・回答根拠の確認
9/16 P3-01	amplified ai	AI と人が技術情報・業務の文脈を共有する仕組み
9/16 P5-06	萬秀憲氏	顧客一次情報と知財情報を結ぶ事業創造

レクシスネクシスの発表は、社会課題から事業仮説を設定し、中村氏の IPL の手順の一部に Protégé を組み込み、経営層向けの報告へつなぐ構成である。AI を使う工程と、結果を届ける相手を明示している。HackCamp も、経営・研究開発向けの成果物と、用途仮説を次の活動に結びつける方法を取り上げている。[3][11]

ブース内発表も比較上重要である。イーパテント・アクティスの塩谷綱正氏は、9月16日に研究開発の段階に合わせた特許情報活用、17日に分析プロジェクトの運営、18日にPMBOKによるIPL実装を取り上げている。分析技術と並んで、依頼の受け方、開発部門とのタイミングの合わせ方、関係者の巻き込み方を扱う構成である。[21]

2025年にも、生成AIを使った分析の自動化と事業化・社内連携の提案は既に存在していた。

前年の発表内容を表3に示す。主催者が公開する2025年プログラムのv5版を基準とした。[4]

表3 2025年の主要な関連講演

日付と講演番号	発表者と企業	発表内容の要点
9/10 P33	HackCamp・正林国際特許事務所	IPLと生成AIを組み合わせた事業戦略
9/11 P60	HackCamp・三菱電機	特許・ノウハウを起点とする事業開発の実例
9/10 P19 9/12 P76	NGB	新たな特許分析指標と生成AIによるポートフォリオ検討
9/12 P81	NGB・AI Samurai・TTDC	IPLの実践と、公開・社内情報の活用
9/11 P41 9/12 P71	アイ・ピー・ファイン	IICと知財DX、AIワーカー
9/10 P8 9/11 P36	ジー・サーチ	技術探索、論文・特許・専門紙の統合
9/12 P66	VALUENEX	特許情報によるR&Dインテリジェンス
9/11 P47	WIPS・POSCO	AIとIPを新規事業企画に使う事例
9/11 P42	TTDC	swimyによる発明創出・特許分析の連続した支援
9/10 P9	amplified ai	AIエージェントによる調査・報告作成・分析
9/11 P39 9/12 P69	Patsnap	EurekaなどのAIエージェント
9/10 P24 9/12 P74	クラリベイト	独自データとAIによる分析・可視化

2025年のHackCampについては事後報告があり、複数特許群から事業テーマを導く紹介と、三菱電機との実践事例発表が実施されたことを確認できる。同社の来場者ヒアリングでは、事業部門との連携が大きな課題として挙がっている。ただし、同社ブースで得られた声であり、来場者全体を代表する調査ではない。[10]

したがって、2025年をパテントマップ中心、AIは補助的、経営・事業への接続が弱かったと一括して評価するのは適切ではない。公開された展示・発表には、事業化、社内連携、自動化まで含まれていた。[4][10][13]

主要各社以外にも、比較に入れるべき展示がある。表 4 では、分析基盤、競合分析、コンサルティングの領域を補完する。

表 4 関連する分析基盤とコンサルティングの展示

出展者と領域	確認できた内容と比較上の意味
Patentfield	2025 年にも AI 検索・分類・可視化を展示。2026 年は特許分野に特化した独自 LLM の D シリーズを初公開するとし、AI 検索サポートは参考出展と明記。独自モデルと工程支援の拡充が差分である。[22][23]
Patsnap	2025 年に Eureka を含む AI エージェントを既に紹介。2026 年は Analytics、Eureka に加え、API・MCP・Skills など、他の利用環境との接続を講演で説明している。[24][3]
IPdash Intelligence	2026 年の Rival Seeker は、特定企業の技術開発をチーム単位で捉えることに特化。競合分析の対象を具体化した例である。2025 年との同一サービス比較を裏付ける資料は限定的であり、初出展とは断定しない。[25]
パソナナレッジパートナー等	2025 年は調査、コンサルティング、投資判断を支える技術 DD 等を展示。2026 年は電通総研・鷺田国際特許事務所との共同出展で、AI による競争分析と人材・組織開発を組み合わせる。[26][27]
AIBS・知財戦略ラボラトリー	AIBS は 2025 年に事業戦略につなぐ知財コンサルティングを展示。2026 年は AI 分析と専門家を組み合わせ、事業上の急所を守るポートフォリオ設計を訴求している。[28][6]
既存の分析・評価基盤	Questel の Qthena、WIPS の AI 分類、ウィズドメインの分析・価値評価は 2025 年から確認できる。2026 年の新潮流と評価する際には、具体的な追加機能まで特定する必要がある。[29][30][31]

インパテック、パテント・リザルト、プロパティ、スピーダ等の検索・分析・事業情報サービスも両年の出展情報で確認できる。ただし、公開説明の詳しさに差があるため、製品名の継続掲載だけから大幅な機能進化を判断することはできない。[5][6]

IPL を実際に使わせるための支援が、サービスの中身として詳しく示されている。

ここからは、確認した展示・発表を踏まえた考察である。TTDC の経営・開発への働きかけ、イーパテントのプロジェクト運営、パソナ等の人材・組織開発には共通点がある。分析の正しさだけでは、経営会議での採用、研究開発テーマの変更、事業部門の行動にはつながらない。その間にある課題設定、対話、意思決定のタイミング、責任者の合意形成まで支援対象にしている。[3][21][27]

2025 年にも部門連携の問題意識はあった。2026 年は、その解決方法が講演やサービスの具体的な構成要素として見えやすくなったと捉えるのが適切である。これは企業全体での定着が実証されたという意味ではなく、提供側の提案内容が具体化したという評価である。

IPL の成果物が、利用目的に応じて細かく分かれている。

2026 年には、経営層向けの報告、特許群からの用途仮説、開発に使う品質表、競合の技術開発グループの把握など、出力の使い道が具体的である。[3][11][15][25]

同じ分析結果をすべての部門に配る方法には限界がある。経営には投資の選択肢、開発には解くべき課題、事業部門には顧客への提供価値が必要になる。IPL の設計段階で、誰のどの判断を支えるのかを決める重要性が高まっている。

ただし、特許から抽出・推定した課題や用途仮説は、そのまま顧客需要の実証にはならない。2026 年の萬氏の講演要旨が顧客接点の一次情報と知財情報の組み合わせを扱う点も、この接続の重要性を示している。[3]

生成 AI の価値を評価する際、回答の根拠や処理過程が重要になっている。

レクシスネクシスは分析過程の確認を製品説明に含め、化学情報協会は検索戦略・調査過程・回答根拠の可視化を訴求している。VALUENEX の講演要旨も、AI による調査の自動化に伴う誤情報や文脈の見失いを問題として挙げている。[9][3]

情報の信頼性は 2025 年にも論点であった。2026 年の特徴は、それを機能や分析方法の説明に落とし込んでいる点にある。経営判断に使う IPL では、結論に加え、対象データ、検索範囲、分類基準、別の解釈を確認できることが重要になる。なお、過程が見えることと結論が正しいことは、別々に評価する必要がある。

社内の知識と継続業務への接続が進められている。

HackCamp の GraphRAG、各社の API・MCP 連携、アイ・ピー・ファインの国内外監視は、分析を日常の業務や社内知識と結びつける提案である。[12][14][23][3]

ただし、社内情報の統合や継続的ランドスケープは、2025 年の IIC・大和でも既に説明されていた。2026 年の変化は、その方向性を、接続方法や監視対象、具体的な業務工程へ展開している点にある。[13][14]

実務上は、分析を更新するだけでなく、どの変化が起きたら誰が再検討するかまで決めることが、継続運用の価値を左右すると考えられる。

知財の分析と資源配分・投資効果との関係が、さらに明示されている。

NGB の出願・放棄分析は、技術への投資の勢いと整理の動きを併せて見る試みである。東芝の知財 ROIC 参考展示は、知財への投資と利益の関係を経営データにつなぐ提案である。[3][20]

ただし、放棄の増加には技術の成熟以外の理由もあり得る。知財 ROIC も、利益の帰属や算定の前提によって意味が変わる。2026 年の資料から確認できるのは、こうした判断支援を提供しようとする方向性であり、個々の手法が事業収益を改善したという因果関係まで展示概要から証明されたわけではない。

比較の結論を適切に評価するため、公開資料から判断できる事項と、別途検証が必要な事項を表 5 に区別する。

表 5 公開資料に基づく評価の範囲

判断できること	今回の公開資料だけでは判断できないこと
Protégé 搭載、NGB の対象国拡張、D シリーズ初公開など、明示された変更	各製品の分析精度や性能の優劣
IPOne の開発構想、知財 ROIC の参考展示	全機能の提供開始、企業での定着
組織実装や判断への接続を扱う発表の具体化	IPL 全体の市場規模・普及率の増加
両年の公式掲載内容の違い	非公開のブース説明や当日の全発言
特定企業による事例・成果の報告	来場企業全体に共通する効果

2026 年の事前パンフレットには、その後変更された講演がある。例えば HackCamp は、正林国際特許商標事務所との共同講演から内容を変更したことを明記している。両年比較では、更新された講演要旨を優先する必要がある。[11]

企業が今回の展示・発表を自社の IPL に取り入れる際には、導入するツールや作成する資料に加え、次の点を評価するとよい。以下は実務への提案である。

- ・意思決定への貢献 研究開発の優先順位、協業候補、事業仮説、投資配分のどれが変わったか。
- ・判断の説明可能性 根拠を確認でき、別の担当者にも判断の経緯を引き継げるか。
- ・組織での継続利用 事業・開発部門から再び依頼され、会議や開発プロセスに組み込まれたか。

2026 年の主要な展示・発表は、こうした問いに答えるための方法を、前年より具体的に示している。IPL の担当者には、分析力に加えて、問いを設定し、受け手に合う成果物を作り、判断と行動まで伴走する力が、さらに求められると考える。

参考文献

本文中の番号は以下の文献番号に対応する。番号をクリックすると該当文献に移動できる。各 URL はリンクとして設定した。最終閲覧日はすべて 2026 年 9 月 20 日である。公開ポータルの内容は更新される場合がある。

[1] 発明推進協会・日本特許情報機構・産経新聞社

「第 35 回 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 開催概要」。2026 年会期の公式情報。

<https://pifc.jp/2026/>

[2] 発明推進協会・日本特許情報機構・産経新聞社

「2025 知財・情報フェア&コンファレンス 公式サイト」。2025 年会期の公式情報。

<https://pifc.jp/2025/>

[3] 知財・情報フェア&コンファレンス主催者・各講演者

「2026 知財・情報フェア&コンファレンス セミナー一覧」。公開演題・日時・講演 ID・講演要旨。該当 ID は本文の表 2 を参照。

<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/seminars>

[4] 知財・情報フェア&コンファレンス主催者・各出展者

「2025 出展者プレゼンテーション タイムテーブル」。PDF 3 頁。ファイル名 pifc2025presen_v5.pdf。9 月 10 日・11 日・12 日のプログラム。

https://pifc.jp/2025/wp-content/uploads/2025/08/pifc2025presen_v5.pdf

[5] 知財・情報フェア&コンファレンス主催者・各出展者

「2025 出展者一覧」。各社の出展概要。個別の詳細ページがある場合はその資料も参照。

https://www.expo-form.com/united2025/usr_list.php?exh=6

[6] 知財・情報フェア&コンファレンス主催者・各出展者

「2026 出展者一覧」。各社の出展概要、製品・サービスの紹介。

<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors>

[7] トヨタテクニカルディベロップメント株式会社

「2025 出展者詳細 トヨタテクニカルディベロップメント株式会社」。主催者公開ページ。小間番号 W4-120。

https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=71

[8] レクシスネクシス・ジャパン株式会社

「イベント 知財・情報フェア&2025 コンファレンス出展案内」。イベント一覧ページ内の 2025 年 9 月 10~12 日開催分。小間番号 W3-60。掲載日記載なし。

<https://www.lexisnexisip.jp/resources/industry-events/>

[9] レクシスネクシス・ジャパン株式会社

「2026 出展者詳細 レクシスネクシス・ジャパン株式会社」。主催者公開ポータル。PatentSight+、Protégé、Classification、IPlytics の説明。

<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-2jqm0bhi>

[10] 株式会社 HackCamp

「第 34 回 知財・情報フェア展示会レポート 知財部門の役割に大きな変化！守りの知財部から攻めの知財部へ」。2025 年 10 月 15 日。出展企業による事後報告。

<https://hackcamp.jp/learning/article/ivan-pifc2025-report/>

[11] 株式会社 HackCamp

「セミナー情報 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者プレゼンテーションに登壇決定」。2026 年 9 月 7 日。講演内容の変更告知を含む。

<https://hackcamp.jp/news/expo-20260902/>

[12] 株式会社 HackCamp

「2026 出展者詳細 株式会社 HackCamp」。主催者公開ポータル。共創ナビ ivan、GraphRAG、伴走支援の説明。

<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/hackcamp>

[13] アイ・ピー・ファイン株式会社

「2025 出展者詳細 アイ・ピー・ファイン株式会社」。主催者公開ページ。THE 調査力 AI、IIC、大和、継続的ランドスケープの説明。

https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=5

[14] アイ・ピー・ファイン株式会社

「2026 知財・情報フェア&コンファレンスへ出展します」。2026 年 7 月 8 日。展示の見どころ、2 件の出展者プレゼンテーションの案内。

<https://ipfine.jp/event-seminar/2026> 知財・情報フェア&コンファレンスへ出展しま/

[15] VALUENEX 株式会社

「2026 出展者詳細 VALUENEX」。主催者公開ポータル。VALUENEX Radar、RTI、Radar QFD の説明。

<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/valuenex>

[16] 株式会社ジー・サーチ

「2025 出展者詳細 株式会社ジー・サーチ」。主催者公開ページ。JDream Innovation Assist、Expert Finder、JDreamIII、受託調査分析。

https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=51

[17] クラリベイト・アナリティクス・ジャパン株式会社

「2025 出展者詳細 クラリベイト・アナリティクス・ジャパン株式会社」。主催者公開ページ。IPfolio、Derwent 製品等の展示概要。

https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=39

[18] クラリベイト・アナリティクス・ジャパン株式会社

「2026 出展者詳細 クラリベイト・アナリティクス・ジャパン株式会社」。主催者公開ポータル。IPOne は開発中と説明。IPfolio、Derwent 等の情報を含む。

<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-7opypyi1>

[19] 東芝デジタルソリューションズ株式会社

「2025 出展者詳細 東芝デジタルソリューションズ株式会社」。主催者公開ページ。IPeakMS、MotionBoard、PATWARE、生成 AI 活用の展示概要。

https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=70

[20] 株式会社東芝

「2026 知財・情報フェア&コンファレンス イベント情報」。出展概要。知財 ROIC、生成 AI 活用例、知識ばらしを参考出展と記載。掲載日記載なし。

<https://www.global.toshiba/jp/company/digitalsolution/event/2026/0916-0918.html>

[21] 株式会社イーパテント・株式会社イーパテント・アクティス

「2026 出展者詳細 株式会社イーパテント／株式会社イーパテント・アクティス」。主催者公開ポータル。サービス紹介、9 件のブースプログラム。

<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-hr1ksqm0>

[22] Patentfield 株式会社

「2025 出展者詳細 Patentfield 株式会社」。主催者公開ページ。AI 検索・分類・可視化等の説明。
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=91

[23] Patentfield 株式会社

「2026 出展者詳細 Patentfield 株式会社」。主催者公開ポータル。D シリーズ初公開、AI 検索サポート参考出展、分析機能・API 連携。
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/patentfield>

[24] Patsnap 合同会社

「2025 出展者詳細 Patsnap 合同会社」。主催者公開ページ。Analytics、Eureka 等の説明。
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=86

[25] IPdash Intelligence

「2026 出展者詳細 IPdash Intelligence」。主催者公開ポータル。Rival Seeker の製品説明と 9 月 18 日の発表案内。
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ipdash-intelligence>

[26] 株式会社パソナナレッジパートナー

「2025 出展者詳細 株式会社パソナナレッジパートナー」。主催者公開ページ。KPO、コンサルティング、クイック技術デューデリジェンス。
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=84

[27] 株式会社パソナナレッジパートナー・株式会社電通総研・弁理士法人鷺田国際特許事務所

「2026 共同出展者詳細 知財戦略支援サービス」。主催者公開ポータル。競争分析、人材・組織開発、AI 活用支援。
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-youq4ndp>

[28] 株式会社アビリティ・インタービジネス・ソリューションズ

「2025 出展者詳細 株式会社アビリティ・インタービジネス・ソリューションズ」。主催者公開ページ。IP×経営コンサルサービス等の説明。
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=18

[29] Questel

「2025 出展者詳細 Questel」。主催者公開ページ。Orbit、Qthena 等の説明。
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=38

[30] 株式会社 WIPS

「2025 出展者詳細 株式会社 WIPS」。主催者公開ページ。WIPS Global、WIPS PRISM、PATBRIDGE。
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=27

[31] 株式会社ウィズドメイン

「2025 出展者詳細 株式会社ウィズドメイン」。主催者公開ページ。ULTRA Patent、IPTells 等の分析・評価サービス。
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=26